

地对協コーナー

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、国は再度の緊急事態宣言を発出しました。本県においても、新規感染者の発生を減少に向かわせるため、「第二次集中対策」が打ち出され、引き続き県全体での対策・協力が求められています。

さらなる一手として、国は新型コロナウイルスのワクチンを確保するとともに、医療従事者、高齢者、その他基礎疾患のある方など、感染リスクの高い方から順次ワクチン接種を行う体制を整えており、本県においても各医療機関・市郡地区医師会の協力をいただきながら、医療従事者への接種準備が進められているところです。スムーズにワクチン接種が進み、感染抑制に繋がることを期待します。

さて、今号では12月に開催された委員会の報告をお届けします。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の各委員会活動などは、地对協ホームページ(<http://www.citaikyo.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○精神疾患専門委員会 統合失調症WG

日時：令和2年12月7日(月)19時00分

場所：広島県医師会館 3階 301会議室

WG長：町野 彰彦

第7次保健医療計画の中間見直しにあたり、統合失調症における県連携拠点、地域連携拠点機能の明確化に向けて設置した本WGにおいて、今年度実施した統合失調症精神医療アンケートの調査結果をもとに拠点機能や拠点設置について協議を行った。

議題

(1) 統合失調症精神医療アンケート調査の結果について

広島県健康対策課より、昨年度開催した精神疾患専門委員会からの経緯や、医療機能の明確化、現在の県連携拠点機能と地域連携拠点機能及び令和2年度第1回精神疾患専門委員会での検討内容(9月2日(水)第1回精神疾患専門委員会：広島県医師会速報第2461号(令和2年11月15日号)地对協コーナーにて既報)について説明があった。

今年度の中間見直しにあたり、国が医療計画の見直しなどに関する検討会において意見を取りまとめている。医療提供体制の重点指標が各疾患の入院および外来診療をしている医療機関数としているが、より質の高い精神医療の提供に向け、精神医療体制の高度化に資する項目を重点指標にすることが示され、また、統合失調症については政策動向として、治療抵抗性統合失調症治療薬や精神科電気痙攣療法(mECT)などの専門的治療法を提供できる体制を目指す

ことが示された。

第7次保健医療計画の見直しに向けた本県の方向性としては、国から出された指針を参考に第7次保健医療計画策定時、13疾患共通の県連携拠点と地域連携拠点の役割を設定し、県内体制を整理しているが、統合失調症については患者ごとの県連携拠点、地域連携拠点機能の明確化、医療機関が不足(地域偏在)する疾患の体制整備といった課題が残っていることから、各病院の現状把握のためのアンケートを実施し、本WGにおいて拠点機能の検討および選定案を作成することとなった。

(2) 統合失調症精神医療の県拠点、地域連携拠点機能について

今年度実施した統合失調症等精神医療アンケート調査の結果(対象：県内の精神科を標榜する医療機関(41)、実施期間：令和2年9月28日～10月9日、回収状況：回収34機関(回収率：82.9%))をもとに、広島県健康対策課より調査結果および県連携拠点・地域連携拠点機能の候補(案)について説明があった。

広島県の統合失調症精神医療の県連携拠点と地域連携拠点機能の条件としては次の6点を挙げた。①治療抵抗性統合失調症の治療を積極的に実施していること、②クロザピン治療の実績があること、③修正型電気けいれん療法(mECT)治療実績があること、④治療抵抗性の統合失調症患者に心理社会的支援を実施していること、⑤日本統合失調症学会の会員がいること、⑥県内地域で、治療の普及や人材育成に貢献していること。

広島県は拠点希望をしている医療機関のうちすべての条件を満たしている1医療機関を県連携

拠点機能に、拠点希望のうち4項目を満たしている5医療機関に加えて希望していないが同じく条件を満たしている1医療機関の計6医療機関を地域連携拠点機能として、7医療機関を拠点機能候補として提案した。

委員からは拠点機能を持つ病院は急性期ですぐに治療を行うことのできる病院(精神科救急対応病院)がよいといった意見や疾患ごとに区分けしても地域の事情によって対応が難しいので人口動態も考慮して検討してはどうかとの意見があった。

委員から寄せられた意見を踏まえて、本WGの検討結果としては広島県提案の拠点機能候補(案)で進めることとした。

本協議結果は、年度末に開催予定の第2回精神疾患専門委員会において町野WG長より報告予定。

○小児医療体制検討専門委員会

日時：令和2年12月9日(水)19時00分

場所：広島県医師会館 2階 201会議室

委員長：岡田 賢

広島県の小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響等に関して情報共有を行ったほか、第7次広島県保健医療計画における小児医療(小児救急医療を含む)対策の中間見直しの対応方針について報告があり、それぞれ意見交換を行った。

初めに、広島県地域保健対策協議会 松村誠会長より、「本委員会は広島県行政・広島大学・広島県医師会をはじめとした民間団体・病院などの「官学民」あがりの組織であり、その取り組みこそが県内の小児医療体制を築いていく委員会であると思う。本委員会でのご意見を来年度、行政へ提言していきたい。また現在、本県でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、子どもたちにも感染は広がりつつあり、学校や家庭内での感染が懸念される。小児医療においては受診抑制なども非常に大きな影響を与えており、医療経営なども踏まえ、大きな視点で今後の小児医療についてご議論をいただきたい。」と挨拶があった。

議題

(1) 小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響等について

まず、広島県医療介護人材課より、広島県の小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響や対応などに関して報告があった。県内の12月7日までの累計患者数は1,128人であるが、うち10歳未満が28人(2.5%)、10代は51人(4.5%)である。また、令和2年度の小児救急医療拠点病院における小児救急外来患者数は、4月～8月の合計で前年度比-70%前後と小児救急への影響は非常に大きくなっている。また小児救急医療電話相談件数も減少しており、特に発熱、咳、嘔吐などが大きく減少している。感染症の発症自体が減少したものと考えられる。コロナ禍における医療機関の経営状況などに関する調査では、約8割の医療機関の経営状況が悪化しており、そのうち小児科では6割強の収益状況が採算割れとなっており、特に影響を受けていることが報告された。またあわせて、県内の新型コロナウイルス感染が疑われる小児の対応フローおよび在宅の重症心身障害児(者)らの対応フローについても紹介があった。

委員からは、小児救急医療体制への影響や受診抑制による診療所の経営悪化に伴う閉院などが懸念されることから、県行政に対し助成などを求める意見があった。

続けて、大田委員より、小児診療の実情に合わせて提案した、インフルエンザ、新型コロナウイルス同時流行に備えた発熱小児診療フローならびにCOVID-19検査フローについて説明があった。また、広島県小児科医会のワーキンググループで作成された「小児領域のCOVID-19/インフルエンザ検査に関するQ&A (Version 1.0)」について、特に疑問に思いついた点(総合的なことから、採取検体の種類や採取法、検査法や个人防护具(PPE)など)を中心に簡潔に分かりやすくまとめられており、役立てていただきたいとして説明があった。

これらの報告・説明の後、各医療機関の新型コロナウイルス対応の現状などについて情報共有・意見交換を行った。小児については感染者数も少なく、ほとんどが軽症であるとの報告の一方で、成人については感染者数の増加によりトリアージなどの現場が逼迫している現状について報告があった。また小児についても陽性となった場合の入院先への懸念や、医療的ケア児の受け入れ体制を整える必要があるとの意見があった。

(2) 「医療計画」(第7次広島県保健医療計画)の 見直しについて

広島県医療介護人材課より、第7次広島県保健医療計画における小児医療(小児救急医療を含む)対策の中間見直しにおける対応について、国の改正指針などで示された新たな追加指標例から、災害時小児周産期リエゾン任命数を指標として追加するとの方針が示された。またこのたび、広島県災害時小児周産期リエゾン設置要綱が制定された旨も報告があった。国の追加指標例である小児訪問診療に関する3指標については、第8次広島県保健医療計画に向け、今後施策、指標を検討したいとの説明があった。

委員からは、既存の指標である乳児死亡率について、新生児・小児医療の水準をより正確に表す評価となる周産期死亡率で設定すべきとの意見があった。その他、小児科医の働き方について小児科医のさまざまな働きを国に示せるデータや、女性医師が働きやすい指標やサポートを求める意見や、重症心身障害児者などの移行期医療の体制整備を求める意見があった。また岡田委員長からは、今後の小児医療(特に小児救急医療など)の破綻が懸念されており、小児救急医療体制の確保に向けて集約化などについて県が中心となり進めてほしいとの意見があった。

(3) その他

福山市民病院の池田委員より、福山市民病院が令和3年4月の小児救急医療拠点病院指定を目指している旨、報告があった。

今回は年明けに第2回委員会を開催し、福山・府中地域保健対策協議会より福山市民病院の小児救急医療拠点病院指定に向けた整備状況の報告を受け、全県の小児医療提供体制構築の観点から本委員会でも検討予定である。

○発達障害医療支援体制検討特別委員会

日時：令和2年12月23日(水)19時30分

場所：広島県医師会館 3階 301会議室

委員長：松田 文雄

広島県障害者支援課より、本県の発達障害者診療について現状報告と、診療実態アンケート調査の内容について報告があり、初診待機期間解消などの課題解決に向けた取り組みについても報告があった。

議題

(1) 発達障害の医療連携体制の構築について

広島県障害者支援課より、本県における発達障害診療の現状として、初診待機期間が6ヵ月を超える事例があること、専門医および発達障害と診断された後に地域での支援を担う医師が不足していることが課題として挙げられ、その解消のため、昨年度までの広島県地域保健対策協議会で取り組んだ内容について報告された。医療連携体制の構築について、呉地域に地域連携拠点がこれまで整備されていなかったことから、新たに呉みどりヶ丘病院を選定する計画が紹介され、これにより、7圏域すべてに地域連携拠点が整備されることとなった。

(2) 令和2年度発達障害の診療実態アンケート 調査結果について

今年度実施した、発達障害の診療実態アンケート調査について報告があった。

調査の結果、発達障害の診療を行う医師数が令和元年度調査の187人から195人へ増加していた。全県における、初診待ち期間が6ヵ月を越える医師の割合は令和元年度の18.4%から4.7%へ減少した。初診待機患者数は令和元年の1,838人から1,742人へ96人減少している。

新型コロナウイルス感染症の発生による影響も調査し、新規患者の予約に制限をかけた医療機関が12%あった。受診者数の減少の有無についても24.8%の医療機関から減少したと回答があった。

(3) 発達障害の診療待機解消に向けた取り組み について

本県では、発達障害の診療待機解消に向けた取り組みとして、「①各市町の健診時スクリーニング機能の強化」「②相談支援拠点相談員を介した地域ネットワーク体制の構築」「③発達障害医療連携体制の構築」を実施している。①については、健診状況調査・分析、スクリーニングマニュアルを整備することで本来受診が必要ない層の医療機関受診を抑制することを目指している。②では相談支援拠点相談員が事前アセスメントを行うことで医師の初診対応の負担軽減と診察枠確保を目指している。③は、これまでも行っている診療医の養成を継続し、多くの医師が発達障害を診療できる体制を目指している。

また、発達障害診療円滑化事業について紹介があり、心理士等のアセスメント内容が紹介された。委員からは医師の負担軽減、診療時間の短縮に繋がるが、診療報酬の面で影響が出る可能性について指摘があった。

(4) 発達障害の医療連携体制の構築にかかる対応の整理について

令和元年度までは医療連携体制の構築の計画進捗の評価については定量的評価項目と定性的評価項目を広島県独自に設定し評価していたが、項目が分かりにくいなどの意見があり、厚生労働省障害者総合福祉推進事業「発達障害児者の

初診待機等の医療的な課題と対応に関する調査」における調査項目を評価項目として利用することが報告された。また、発達障害診療円滑化事業の実施地域について、呉地域(継続)、県北西部、福山地域の3地域をモデル地区として事業を実施することが報告された。

県地对協からの提供資料について

県地对協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.7」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.3」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- C型肝炎「わたしの手帳」
- 前立腺がん 手帳 地域連携パス
- 甲状腺がん 手帳 地域連携パス など

【パンフレット・マニュアル】

- 広島県のつつが虫病と日本紅斑熱について
- 予防接種の普及を目指して
- 医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル
- ACPの手引 「豊かな人生とともに…」
- 「海外で気をつける蚊媒感染症 デング熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、チクングニア熱、マラリア」

【報告書】

- 新型インフルエンザに関するアンケート調査報告書

【事務局】 広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp



乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.7」



肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.3」



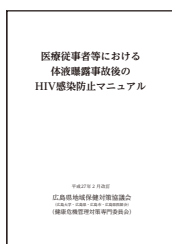
心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス



広島県内のダニ類媒介感染症 つつが虫病、日本紅斑熱、重傷熱性血小板減少症候群(SFTS)



予防接種の普及を目指して



医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル



新型インフルエンザに関するアンケート調査報告書



ACPの手引「豊かな人生とともに…」



C型肝炎「わたしの手帳」



「海外で気をつける蚊媒感染症 デング熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、チクングニア熱、マラリア」



前立腺がん 手帳 地域連携パス



甲状腺がん 手帳 地域連携パス

など

※一部ホームページにて公開中

広島県 地对協

検索

